

グループホーム 郷
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401699		
法人名	有限会社 介護サービス郷の家		
事業所名	グループホーム郷		
所在地	札幌市手稲区前田5条15丁目2番8号		
自己評価作成日	平成29年1月13日	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigyosyoCd=0170401699-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 入居者様の日々の健康面への管理(精神面へのチェック)
- 毎日の生活が、穏やかに、ゆっくり、ゆっくりと時間が流れること
- 食の楽しみが感じられるように

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年1月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲駅から徒歩15分、至近のバス停から5分程度の住宅地にある2階建て1ユニットのグループホームである。下宿を改築した建物で、温かみがあり、装飾や調度品も家庭的なものを揃えている。居室は12畳ほどと広く、カーベットを敷いたり、ベッドや家具、椅子、テレビなどを好みの配置にして、安心して過ごせるようにしている。職員が利用者に明るくやさしく接しており、利用者の表情も明るい。職員同士のコミュニケーションも良好である。頻繁に来訪する家族が多く、家族と職員も気軽に相談できている。また、家族には毎月、職員が利用者の様子を手紙に書いて送付している。地域との関係では、夏祭りや盆踊りに利用者と一緒に参加したり、事業所のお祭りには地域の住民や子供達が飛び入り参加している。歌や楽器演奏のボランティア訪問も受けている。区のふれあいフェスティバルの見学受け入れに協力したり、随時、管理者が市役所に出向いて相談するなど、市との良好な協力関係も築いている。受診支援の面では、協力医による月1回の往診、歯科医の月2回の往診があり、その他の通院も状況に応じて事業所で支援している。食事の面では、食事専門の職員を配置し、美味しい食事が提供されている。畑で採れた数々の野菜も食卓に上っている。地域に溶け込み、利用者がゆったりと過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	 ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	表にして、管理者からも機会あるごと話し、スタッフすべて理解し、毎日実践している	「地域の中で一人一人がその人らしく生き生きと暮らせるよう支援します」という事業所独自の理念があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念をパンフレットや玄関廊下に掲示し、職員間で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミ当番、祭り、雪はねの協力等、交流している	地域の夏祭りや盆踊りに利用者と一緒に参加している。事業所のお祭りには地域の住民や子供達が飛び入り参加している。月2回、歌や楽器演奏のボランティア訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近には特に近所の人から入居したいとの問い合わせがある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	充分に活用している	運営推進会議を2ヵ月毎に開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、利用者家族の参加を得て、活動報告、防災、感染症対策、外部評価などのテーマで意見交換している。不参加の家族にも来訪時に会議内容を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時々、直接相談に行く	運営推進会議に地域包括支援センター職員から情報提供を受けている。書類作成の相談など管理者が市役所に出向いて相談している。また、区のふれあいフェスティバルの見学受け入れも行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	充分に取り組んでいる	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為とその説明が書かれたマニュアルを用意し、職員間で共有している。一時的に職員が少なくなる時以外、日中は玄関を施錠せず、自由に出入りすることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを含め、毎朝の打ち合わせ、事例を作り、スタッフ一人ひとりに話をしている		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用し、充分支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映させている	家族が頻繁に来訪しており、その際に意見を聞いている。家族から得られた意見はスタッフノート、管理者ノートに記載し共有している。また、利用者ごとに「～さんの最近の様子」という手紙を作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	している	毎日朝夕の申し送りや年数回のミーティングで職員は活発に意見交換している。その他にもスタッフノートや管理者ノートで情報を共有している。職員は行事企画や食材購入、小遣い帳作成などの業務を分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充分とは言えないが、許される状況の中で精いっぱい進めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会があるかぎり、研修への参加を呼びかけスタッフによっては熱心に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行っている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	数名の利用者は、昔近くに住んでいた友人や宗教関係の知人などが来訪しており、趣味の造花づくりに定期的に出かける利用者や、家族と一緒に墓参りに行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの今迄のその人の人生の流れを少しでも理解し、その人自身の暮らしを大事にしている	大半の利用者は言葉で思いを表出でき、言葉以外にも利用者の表情から意向を把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメントシートを作成し、その後は毎年、課題分析表を作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時には一日の細かなバイタル表を作り、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	実施している	介護計画は3～6ヵ月の期間で見直しし、その間に変化があれば都度の見直しも行っている。見直しの際は会議で職員と管理者の意見を集約している。毎日、利用者ごとの24時間生活変化シートを作成し、介護計画に関する内容を記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	充分でないにしても、その方向で進んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑、花畑等の利用もしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	細かな医療機関との関係を続けている	協力医による月1回の往診の他に歯科医の往診を受けており、内科以外の受診等は家族対応としているが難しい場合は事業所で支援している。受診内容を受診時記録に記載し、職員間で共有している。	

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護スタッフと細かな連絡をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	充分に行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合や看取りについての事業所の方針を口頭で説明している。重度化した場合は医師や家族と相談の上、事業所でできる範囲の支援を行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	24時間対応できるようスタッフへの指導を行っている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	出来ている	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署や地域住民の協力を得て行っている。災害時の備えとして、ホームより5分の場所に備蓄品を確保している。職員の救急救命訓練は受講後、間隔のあいている職員が多くなっている。	全職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう、計画的な取り組みを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	実施している	利用者への呼びかけは名字に「さん」付けを基本としているが、本人が好む呼び方も取り入れている。管理者は職員に、「否定しない」「優しさ」を教育し、個人情報も安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	実施している	食事担当職員が生協の配達や畑で採れた野菜も取り入れたバランスのよい食事を提供し、利用者も調理の下ごしらえ等を手伝っている。職員は利用者と会話しながら同じ食事をとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行っている（入居者、個別に夜間等のトイレ介助を実施している	「排便記録表」をもとに、職員が個々の排泄パターンに応じた支援を行っている。自力で排泄できる方は半数ほどで、周囲の状況に応じて声かけを工夫している。夜間はリハビリパンツやポータブルトイレも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行っている	木曜日以外の午前中に、1人週2回の入浴支援を行っている。入浴を拒否する方には声かけの工夫や状況に応じて清拭等に対応している。入浴剤の使用や湯加減、時間等は個々の希望に合わせ調整している。同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	十分に注意し、実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		

グループホーム 郷

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	冬期間は充分とは言えない	気候のよい時期には、車椅子の方も含め週3回は近所や畑の周囲等を30分程度かけて散歩し、カラオケを楽しむこともある。外出行事では10人乗りの大型車両で、大通りの雪まつりや小樽の桜、恵庭の紅葉を鑑賞し、赤井川村へのドライブも楽しんでいるが、冬場の外出は少ない。	足元が滑りやすい冬場では、地下駐車場を備えた大型店を利用したウインドウショッピングや軽食を楽しむ等の外出支援を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者すべてには対応出来ず、難しい課題である		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	少しでも落ち着いた空間を作るよう努力している	大学生下宿を改造した木造の建物で、玄関から入ると正面にステンドグラス風の飾りが掲げられ、全体に落ち着きと懐かしさを感じさせる雰囲気である。階段には昇降機を取り付け、浴室も広くて使い易くトイレの数も多い。居室や共用空間の温度調整にも配慮されゆったりとした生活の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	充分ではないにしてもその努力はしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	実施している	各居室のドアには花の飾り物が掲げられ、室内は全て12畳と広いスペースになっている。利用者は、写真や仏壇、趣味の調度品など個々の好みに応じた品を持ち込み、居心地のよい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している		

目標達成計画

事業所名 グループホーム郷

作成日：平成 29年 1月 29日

市町村受理日：平成 29年 2月 10日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が3年に一回、救急救命訓練を受講できていない。	スタッフが交代で順次講習を受ける(未受講のスタッフのみ)	地域消防に相談し、具体的に受講日時、スタッフを決めて実施する。	1～2年
2	49	冬場の日常的外出支援ができていない。	少人数ずつ日程を決め、安全な場所、方法を考え、実施していく。	近場のショッピングセンター、カラオケ等最大限利用する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。